

話題・情報は企画課へ
お寄せください。

**防災教育に役立てて
備蓄用保存食と寄附金を寄贈**

8月4日、株式会社竹内組（代表取締役 竹内秀彦）から、備蓄用の保存食と寄附金を寄贈していただきました。寄贈にあたり、竹内代表取締役は「子ども食堂で活用していただき、子どもたちに学校や家庭以外の場でも防災について考えるきっかけにしてほしい」と話し、矢部町長に目録を手渡しました。これを受け、矢部町長は「非常にありがたい。早速、子ども食堂へ配付し、防災教育に役立てていただきたい」と感謝の意を表しました。



目録を手にする竹内代表取締役（左）と矢部町長

寄贈された保存食は、子ども食堂での防災学習などに活用される予定です。

**企業版ふるさと納税で
まちづくりを応援
2社へ感謝状を贈呈**

企業版ふるさと納税制度を通じて寄附をいただいたアイコンヤマト株式会社（代表取締役 信岡宜暁）と株式会社新日本海新聞社（代表取締役社長 吉岡徹）へ、それぞれ感謝状を贈呈しました。

アイコンヤマト株式会社からは令和8年6月に寄附をいただき、7月15日に役場本庁舎で感謝状贈呈式を行いました。同社からの寄附は今年度で4回目となり「地元の地域振興に役立ててほしい」との思いが寄



矢部町長から感謝状を受け取るアイコンヤマト株式会社の信岡代表取締役（左）



矢部町長から感謝状を受け取る新日本海新聞社の吉岡代表取締役社長（左）

せられました。

また、株式会社新日本海新聞社からも令和8年6月に寄附をいただき、7月24日に役場本庁舎で感謝状贈呈式を行いました。同社からは「若桜鉄道の振興に活用してほしい」との思いが寄せられています。

黄綬褒章を受章

令和8年春の褒章で、総合建設業「こおげ建設株式会社」（八頭町宮合）の代表取締役 山根敏樹さんが、業務に精励した人に贈られる黄綬褒章を受章されました。

山根さんは、鳥取県建設業協会会長を務めるなど、長年にわたり県内建設業の発展に尽力。人手不足などの課題解決や働き方改革を進めるとともに、現場で働く人の待遇や職場環境の改善に取り組み、その功績が認められました。

受章にあたり山根さんは、「建設産業は地域を支える重要な産業。現場で働く人が誇りを持てる環境づくりを進め、業界のさらなる発展に尽力したい」と話されました。

このたびの受章を心よりお祝い申し上げますとともに、今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。



黄綬褒章を受章された山根敏樹さん

八東小学校自転車クラブ こども自転車全国大会出場！

6月20日に三朝町で開催された「交通安全こども自転車鳥取県大会」で優勝した八東小学校自転車クラブが、8月10日に東京ビッグサイトで開かれた全国大会に出場しました。

大会には全国各都道府県の代表42チームが出場し、交通ルールや安全走行の知識、運転技術を競いました。

八東小学校からは、児童4名（入江咲英子さん、山崎瑚夏さん、西田健誠さん、佐久間瑞穂さん）が出場し、全国の舞台で躍動しました。

本大会に向けて練習を重ねてこられた選手の皆さん、そして熱心に指導された関係者の皆さん、お疲れ様でした。



全国大会で健闘した自転車クラブの選手たち

林総務大臣が隼「Lab.」を視察

鳥取県で開催された全国知事会への出席に先立ち、林総務大臣が7月16日に「隼「Lab.」」を視察されました。

当日は、(株)シーセブンハヤブサから公民連携で持続可能な地域づくりを進める「隼「Lab.」」の取り組みを紹介。シェアオフィスをはじめとした入居企業と地域住民との交流や、新たな仕事や挑戦が生まれる拠点づくりなど、地域活性化につながる取組について説明が行われました。

また、アक्सシフトパートナーズ株式会社からは、超地域密着型生活プラットフォーム「QLO」を活用した買い物支援事業を紹介。地域課題の解決に向けた取組について、活発な意見交換が行われました。

今回の視察では、公民連携やデジタル技術の活用など、持続可能なまちづくりに向けた取組を共有する機会となりました。



隼 Lab. 前で記念撮影をする林総務大臣、矢部町長ほか関係者

森の恵みを満喫 八東ふるりの森まつり

豊かな自然の中でさまざまな体験を楽しむ「八東ふるりの森まつり」が、7月19日に開催されました。

当日は、ブナの自然林が広がる扇ノ山への登山や、川のせせらぎを感じながら楽しむ漂流サウナ、毎年人気のヤマメのつかみ取りなど、ふるりの森ならではの体験を楽しもうと、多くの来場者でにぎわいました。

ヤマメのつかみ取りでは、子どもたちが夢になつてヤマメを追いかけて、捕まえたヤマメはその場で塩焼きに。焼きたてを味わいながら「おいしい！」と笑顔を見せていました。

また、ふる森マルシェでは、地元産のスイカやトマト、町特産のエリンギを使ったアヒージョなどが並び、来場者は森の恵みを味わいながら、夏のひとときを満喫しました。



エリンギのアヒージョを試食する来場者

やずPが本格始動 地域のお買い物をもっと便利に

地域のお店での買い物をより便利にするデジタルポイント「やずP」の本格運用が始まり、8月2日、ぷらとぴあ・やずでオープニングイベントが開催されました。

当日は、矢部町長をはじめ、八頭キャッシュレス協議会の北村会長ら関係者が出席し、くす玉を割って「やずP」のスタートを祝いました。

現在、やずPは町内約50店舗で利用でき、今後は物価高騰対策の商品券や小・中学校入学祝い金などのポイント付与も予定されています。

北村会長は、「やずPは、地域で買い物をすることで、お金が地域の中で循環する仕組み。多くの方に利用していただき、地域経済の活性化につなげていきたい」と話しました。



くす玉を割ってやずP始動を祝う関係者

2,600台、3,000人が
集に集結
第16回隼駅まつり開催

第16回隼駅まつりが8月2日、隼駅と船岡竹林公園で開催され、過去最多となる約2,600台のバイクと約3,000人の来場者でにぎわいました。

開会式では、隼駅を守る会 石谷会長「みなさんおかえりなさい」という恒例のあいさつで幕を開けました。

船岡竹林公園の展示ブースでは、スズキ(株)による限定グッズ販売をはじめ、2026年新作のTシャツや隼グッズ、バイクパーツなどが並び、多くのライダーでにぎわいました。

隼駅では、駅舎を背景に愛車との記念撮影を楽しむライダーの姿が見られ、スズキ(株)の鈴木社長も訪れ、来場者との交流を楽しみました。



毎年恒例の来場者による記念撮影



盛り上がったじゃんけん大会



入場に長蛇の列が...



隼駅前で愛車と記念撮影

会場では、ゲストライダーの北川さん、津田選手、人気モトブロガーのマキノさんによるトークショーが行われたほか、恒例のライダー交流会やじゃんけん大会も盛り上がり、会場には笑顔が広がりました。

全国から集まったライダーと地域住民の交流が生まれた隼駅まつり。最後は、スズキ社員や矢部町長らが「また来年も隼で会おう」と、帰路につくライダーを笑顔で見送りました。

きんぐり やすっとく 楽しい！を自分たちの手でつくる 中学生ジュニアリーダー ブルーバード

地元八頭町をフィールドに、自分たちが楽しめて、地域にも貢献できる活動をのびのびと行う八頭中学生による団体「ブルーバード」。

現在、約10名のメンバーが活動しており、学年を越えて交流しながら、地域を盛り上げるアイデアを出し合っています。不定期で集まり、子どもたちが楽しめるイベントの企画や運営に取り組んでいます。

こども食堂「ふなっ」が開催した夏祭りでは、「水鉄砲サバイバル」を企画。小学生たちが楽しめるよう、ルールづくりから話し合いを重ねました。

当日は、参加者への説明や水鉄砲の準備、子どもたちへの声かけなど、運営スタッフとして活躍しました。



イベント後に活動を振り返って話し合いをする大学生と中学生メンバー

挑戦を支える大学生の力

ブルーバードの活動を応援しているのが、県内外の学生で組織する「フロンティアスクール」です。

イベントの運営サポートや活動後の振り返りを通して、次の挑戦につながるアドバイスを送っています。

「県外の人と関わることが多いので新鮮。これからの自分を想像するうえでモデルになると、ブルーバードのメンバーも話します。」

若い力で、まずは自分たちが楽しみながら地域を盛り上げる。その経験が地域への愛着を育み、未来のまちづくりを担う力につながっています。

秋には、第2回「逃走中in八頭町」を計画中！

ブルーバードでは、一緒に活動するメンバーを募集しています。興味のある方は、社会教育課(☎84-1232)までお問い合わせください。



水鉄砲サバイバルの後に矢部町長と記念撮影をするメンバー